

# ネパールにおける食料消費および農業生産の多様性と

## 乳幼児の栄養状態に関する分析

共生基盤学専攻 共生農業資源経済学講座 開発経済学 奥村 春香

### 1. はじめに

後発開発途上国の一つであるネパールでは、近年貧困削減が進んでいる。一方、5歳未満の子供（乳幼児）の栄養不良には課題が残る。乳幼児の栄養不良は個人の就学や将来の所得、ひいては国の発展などに影響を及ぼす。乳幼児の栄養不良は消費する食品の多様性が乏しいことによる。多くの既存研究では、食事の多様性が栄養状態に正の影響を及ぼすことが明らかにされているが、ネパールを事例に実証した研究はみられない。

また、ネパールでは食料消費と農業生産との間に強い結びつきがあることから、農業と栄養状態に密接な関係があることが予想される。特に開発途上国では栄養不良児は農村部に多いため、農業生産の多様化を通じた栄養改善が望まれる。しかし、これまでに農業生産が食料消費や栄養状態に与える影響を分析した研究は少ない。

そこで本研究では、ネパール家計を対象に、まず食料消費の多様性と乳幼児の栄養状態の正の関係を確認する。そして、農業生産と食料消費の多様性の関係について分析し、農業生産の多様性が乳幼児の栄養状態の改善に貢献しうるかを明らかにする。

### 2. データと手法

使用するデータは、ネパール統計局による家計調査データ NLSSⅢとする。乳幼児の栄養状態は年齢に対する身長比 HAZ により計測し、家計の食料消費の多様性は Food Consumption Score (FCS) により計測する。農業生産の多様性は、農家世帯が前年に生産した①作物数、②作物グループ数、③作物数+家畜種類数、④作物グループ数+家畜飼養ダミーの4つの指標を用いる。

本研究では、まず目的変数を乳幼児の HAZ、説明変数を FCS やその他家計の特徴を表す変数とし、重回帰分析をおこなう。次に、目的変数を FCS、説明変数を農業生産の多様性（4指標）やその他農業生産に関する変数とし、重回帰分析をおこなう。

### 3. 結果

1) **食料消費の多様性が乳幼児の栄養状態に及ぼす影響** 食料消費の多様性 (FCS) は HAZ に正の影響を与えていることが確認された。これまでの研究で明らかにされたように、食事の多様性が子供の栄養状態にとって重要であることが分析対象サンプルでも確認された。

2) **農業生産の多様性が食料消費の多様性に及ぼす影響** 農業生産の多様性を示す4つの指標は、いずれも FCS に有意な正の影響を及ぼすことが分かった。分析結果から、農業生産は直接的・間接的に家計の食料消費の多様化に貢献しうるということが明らかにされた。

### 4. おわりに

ネパール家計においても、食料消費の多様性は乳幼児の栄養状態に正の影響を及ぼすことが確認された。同時に、農業生産の多様性は食料消費の多様性に正の影響を及ぼすことが明らかにされた。以上より、農業生産の多様性は乳幼児の栄養状態の改善に貢献しうるといえる。